

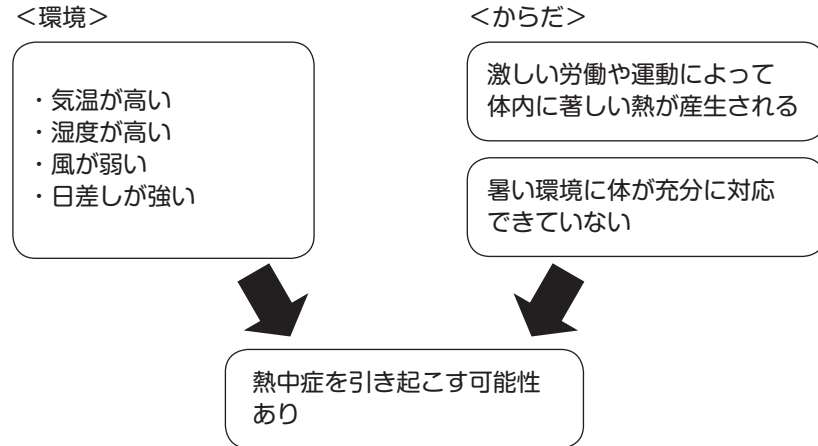
「快適環境おしらせ」の機能について

別紙

熱中症について

熱中症とは、高温環境下で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。

■ 熱中症を引き起こす条件



熱中症予防のための水分補給について

■ 水分・塩分補給の目安

- 日常生活における水分補給：基本的に、不感蒸泄や発汗による水分の損失に対する補給が必要である。睡眠時、入浴時にも発汗する。就寝前、起床時、入浴前後にコップ一杯（約200ml）の水分を補給する必要がある。
日中はコップ半分程度の水分を定期的に（1時間に1回程度）補給する。のどの渇きを感じる前に水分補給を心掛ける。特に高齢者は口渇感等の感覚が衰えており、十分に注意する必要がある。
- 運動時や作業時の補給：水分の補給量は体重減少量の7～8割程度が目安となる。体重の2%以上の脱水を起こさないよう注意する。大量に発汗する運動時や作業時には水分と同時に塩分補給が重要である。0.2%程度の塩分を含む水分を補給するよう心掛ける。
作業前：コップ1～2杯程度の水分・塩分を補給する。
作業中：コップ半分～1杯程度の水分・塩分を20～30分ごとに補給する。
作業後：30分以内に水分・塩分を補給する。
- 飲酒時の補給：アルコールは利尿作用が強く、飲酒量以上の水分を排泄するので、飲酒後は、水分を十分に補給する。
- 空調装置使用時の補給：室内は空気が乾燥することから、気がつかないうちに脱水が生じる。こまめに水分を補給する。

出典：日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.3より

熱中症おしらせ機能

警報器周囲の温度・湿度が規定値以上になると、ランプの点灯や音声により「厳重警戒」「危険」の2段階でお知らせします。

《お断り》

- 温度、湿度の組み合わせから得られる熱中症注意の目安を表示するものです。個人差、体調により感じ方が異なる場合があります。
- 警報器から離れた場所や屋外は表示できません。
- 公的機関から発表される「注意」「警報」と一致しない場合があります。

基準 (WBGT※)	ランプ表示	熱中症おしらせ動作	注意すべき点
危険 (31℃以上※)	橙点灯	 点灯から10分後 「ポーン 部屋がたいへん暑くなっています 風通しをよくし水分や塩分をとるようにしましょう」と鳴ります。 橙ランプ点灯がさらに継続した場合、30分後と60分後にも上記と同じフレーズが鳴ります。 それ以降は橙ランプ点灯のみで音声は発しません。 * ただし、この状態で警報停止スイッチを押すと熱中症おしらせの音声は鳴動します。	熱中症の危険があります。風通しをよくしたり、エアコンなどで冷房したりして暑さを解消してください。 特別な場合以外はすべての運動を止めて、体温の上昇に注意し、十分な休息と水分・塩分補給を行ってください。
厳重警戒 (28℃以上～31℃未満※)		 橙ランプが点灯します（音声は鳴動しません）。 * ただし、この状態で警報停止スイッチを押すと熱中症おしらせの音声は鳴動します。	

※「WBGT（湿球黒球温度）」とは、暑熱環境下における危険の度合いを判断するために用いられる指標（暑さ指数）で、単位は気温と同じ℃で示されますが、その値は気温とは異なります。

◎ 警報器周囲が適切な環境になるとおしらせ状態は自動的に解除されます。

◎ 「熱中症おしらせ機能」は、警報器周囲の環境条件から熱中症注意の目安を示し体調管理などにお役立ていただくもので、熱中症を防止できるものではありません。

乾燥について

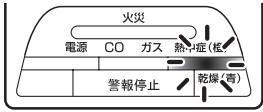
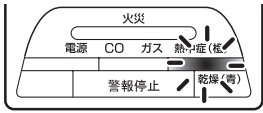
空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。加湿器などで室内の湿度を調整しながら乾燥を防ぐことが必要となります。

乾燥おしらせ機能

警報器周囲の温度・相対湿度・絶対湿度が規定値以下になると、ランプの点灯や音声により「注意」「警戒」の2段階でお知らせします。

＜お断り＞

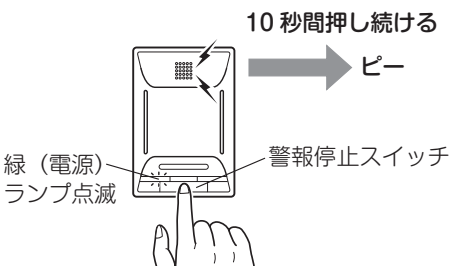
●絶対湿度や温度等から推測される季節性インフルエンザのウイルスが生存しやすい環境になっていることを表示するもので、ウイルスの存在を断定するものではありません。

基準	ランプ表示	乾燥おしらせ動作	注意すべき点
警戒 絶対湿度 [7g/m ³ 以下] 温度 [30℃未満] 相対湿度 [40%以下] (ただし、温度 15℃未満は音声なし)	青点灯	 点灯から6時間後「ポーン 部屋が乾燥しないよう心がけましょう」と鳴ります。 それ以降、環境湿度が「警戒」状態の間は青ランプ点灯のみで音声は発しません。 * ただし、この状態で警報停止スイッチを押すと乾燥おしらせの音声が鳴動します。	インフルエンザウイルスに感染しやすい環境になっています。加湿器などを使って、適度な湿度(50～60%)を保ち、うがい・手洗いを徹底してください。
注意 絶対湿度 [7g/m ³ 以下] 相対湿度 [40%超]		 青ランプが点灯します（音声は鳴動しません）。 * ただし、この状態で警報停止スイッチを押すと乾燥おしらせの音声が鳴動します。	

◎ 警報器周囲が適切な環境になるとおしらせ状態は自動的に解除されます。
◎ 「乾燥おしらせ機能」は、警報器周囲の環境条件から空気の乾燥をおしらせし健康管理などにお役立ていただくもので、インフルエンザなどを防止できるものではありません。

おしらせ切替機能

本警報器は、警報停止スイッチを10秒間押し続けることで、熱中症・乾燥おしらせ音声を「なし」に切り替えられます。熱中症・乾燥おしらせ音声を「なし」に切り替えたときは、下記のように動作します。



		おしらせ音声なし設定	
		ランプ表示	おしらせ音声
熱中症 おしらせ	嚴重警戒	橙消灯	なし
	危険	橙点灯	<u>なし</u>
乾燥 おしらせ	注意	青点灯	なし
	警戒	青点灯	<u>なし</u>

表中の下線部は、おしらせ音声を「なし」に切り替えた時に、ランプ表示またはおしらせ音声の設定が変更されます。

※おしらせ音声を「なし」に切り替えた場合、熱中症（嚴重警戒）の状態でもランプが点灯しなくなります。
※ 切り替えた機能は電源が切れても保持されます。
※ おしらせ切替機能は繰り返し切り替えが可能です。
（再度、警報停止スイッチを10秒間押し続けることで、熱中症・乾燥のおしらせ音声を「あり」に切り替えられます。）

⚠注意

熱中症・乾燥おしらせ音声を「なし」に切り替えると、音声は鳴らなくなります。再度、音声「あり」に切り替えるまで、熱中症（危険）および乾燥（警戒）の注意喚起の音声は鳴りません。

◎ 本切り替えの有無にかかわらず、熱中症やインフルエンザなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。